



南太秦だより

令和6年度後期学校評価結果

令和7年3月
京都市立南太秦小学校
校長 上田 清乃

令和6年度の後期学校評価の結果と考察をお知らせいたします。保護者の皆様には、Microsoft Forms による学校評価へのご協力、誠にありがとうございました。

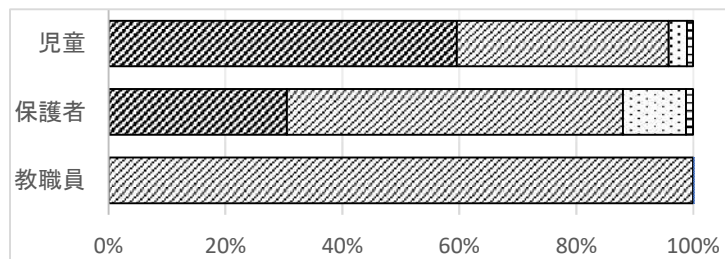
アンケート項目を『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』の3つに分け、今年度後期の学校生活や学習の様子について、児童・保護者・教職員の回答結果を並べて考察し、まとめたものをお知らせいたします。グラフの割合は左から「そう思う」、「大体そう思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」としています。質問内容は同じですが、対象によって聞き方を変えています。(児)は児童への質問、(保・教)は保護者・教職員への質問です。

本アンケートの結果から、今後の子たちへの関わりを見直す機会として学校評価の結果をとらえていきたいと考えています。

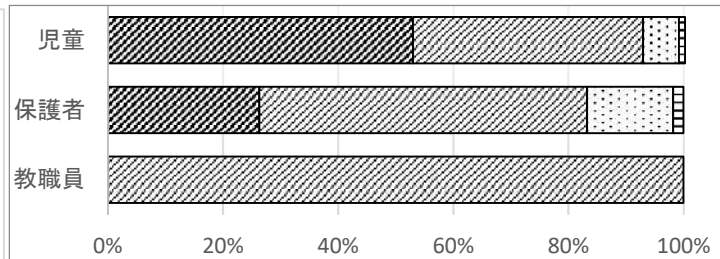
確かな学力

「自ら学び、進んで表現する子」

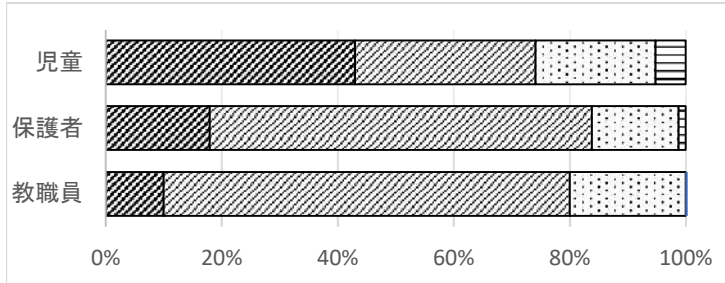
- 1 がっこうの べんきょうは よく わかる。(児)
子どもは授業を理解している。(保・教)



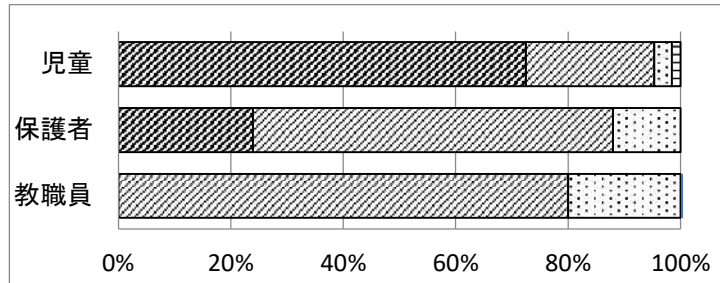
- 2 かんじ(もじ)の よみかきや さんすうの けいさんは できている。(児)
子どもは基礎学力が身についている。(保・教)



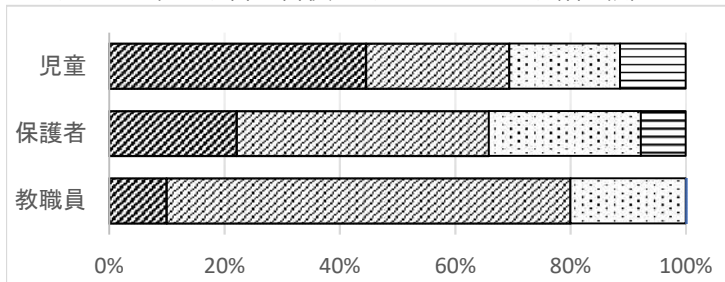
- 3 じゅぎょうちゅうに じぶんの いけんや かんがえを はなしている。(児)
子どもは自分の意見や考えを話すことができる。(保・教)



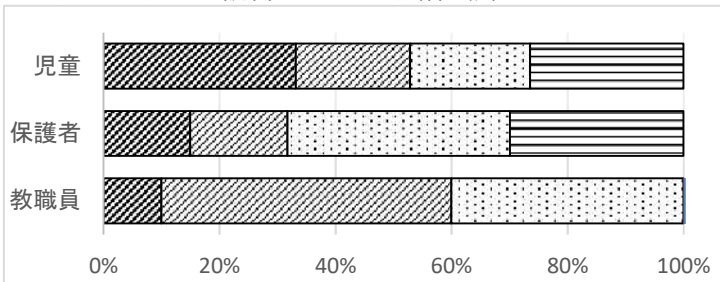
- 4 ともだちの いけんや かんがえを しっかり きいている。(児)
子どもは人の意見や考えを聞くことができる。(保・教)



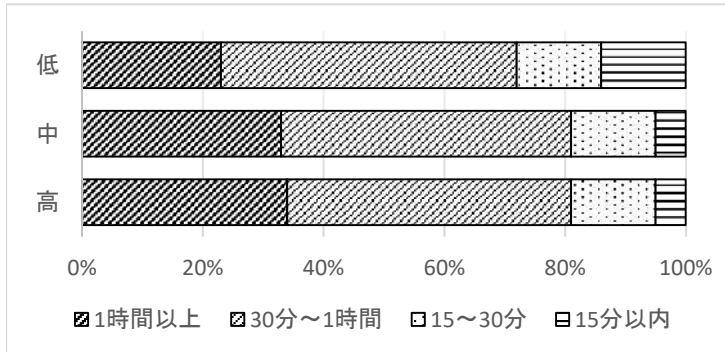
- 5 おうちでの しゅくだいや がくしゅうは きまった じかんに やっている。(児)
子どもは家庭学習の習慣が身についている。(保・教)



- 6 がっこうや おうちで よく どくしょを している。(児)
子どもは進んで読書をしている。(保・教)



- 7 おうちで どれくらいの じかん べんきょう していますか。(児)



★家庭学習の目安時間は15分×学年とされています。



以下の分析に関しまして、便宜上「そう思う」をA評価、「大体そう思う」をB評価、「あまりそう思わない」をC評価、「思わない」をD評価として記述いたします。

設問1「学校の勉強はよくわかる」かを問う設問に対して、児童の96%がAB評価をつけているのは良い結果と言えます。一方で、保護者の12%がCD評価をつけておられるので、個々にみると「定着しているとはいえない」というご意見が窺えます。毎日の授業では、一斉授業で子どもたちに課題を与えたあとに担任がフォローに回ったり、複数体制でみられる時間には、個別に支援を行ったりすることで、さらなる学力の向上・定着を目指したいです。

設問3「授業中に自分の意見や考えを話している」かを問う設問に対する3者のAB評価は児童74%、保護者84%、教職員80%となりました。自分の考えを相手に伝えることは今後進学しても、社会人になっても必要な力です。まずは、ペアやグループなど小集団の中で発言する機会を増やし、場慣れしていくことで、学級の中や全校児童の前でも意見や考えを述べられるようにしていきたいです。また、ハンドサインで自分の意思表示したり、話すことが苦手な児童は書くことで自分の思いを表出したりすることもできるので、学習活動を工夫し、段階的に「話す」活動へつなげていきたいです。

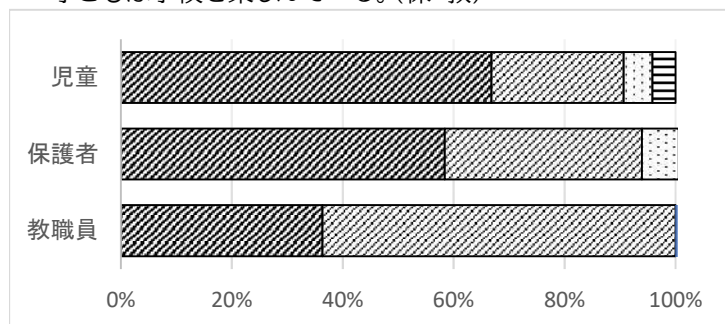
設問5「家庭学習の習慣が身についている」かを問う設問では、3者のAB評価が児童70%、保護者66%、教職員80%となりました。京都市教育委員会発行の「自学自習のすすめ」には、家庭学習について次のように書かれています。『家で学習で大切なのは、毎日、少しでもいいので、読んだり、書いたりしていただくことです。大きな理由が2つあります。1つは、基本的な力（たとえば、漢字の読み書きや足し算・引き算）は、繰り返し学習しないと「身につかない」。そして、「身につけて」しまわないと、先に進めないからです。基本的な力は、「毎日繰り返す」ことで、いつのまにか「身につけて」くるのです。もう1つは、毎日、少しでも勉強することで、それが「普通のこと」になること、家で学習が、「習慣」になるということです。自分で勉強するという習慣は、「計画を立てたり」、「見通しを持って行動したり」、などのとても大切な力をつけることにつながります。この力は、自分の時間や行動を自分で決めていく力であり、社会でたくましく生きていくための基礎となる力です。』この「繰り返し」と「習慣」の2点を念頭に置き、家庭で決まった時間に学習するという習慣を定着させてほしいです。

豊かな心

「多様な価値観を認め、互いに尊重し合う子」

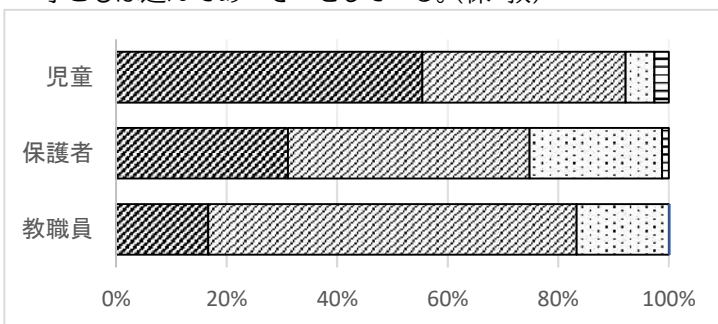
8 がっこうは たのしい。(児)

子どもは学校を楽しんでいる。(保・教)



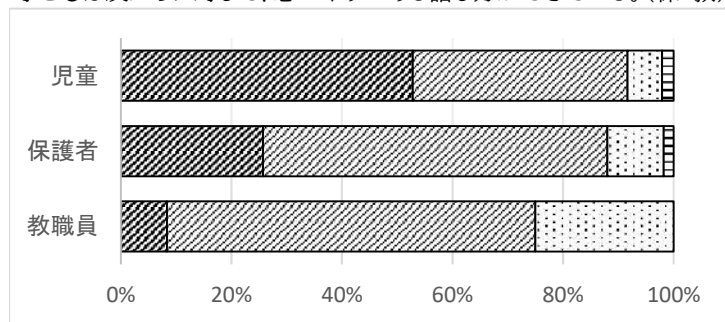
9 すすんで あいさつを している。(児)

子どもは進んであいさつをしている。(保・教)



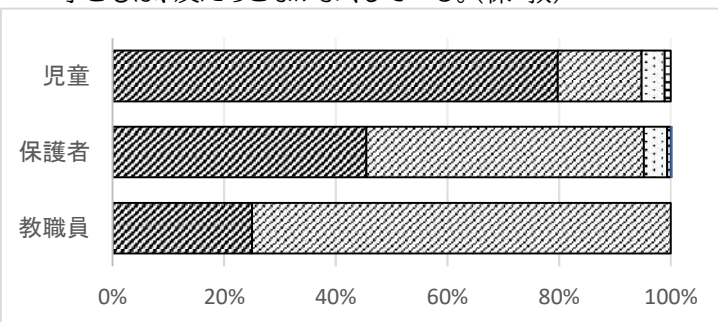
10 ともだちの きもちを かんがえて ことばを つかっている。(児)

子どもは友だちに対して、思いやりのある話し方ができている。(保・教)



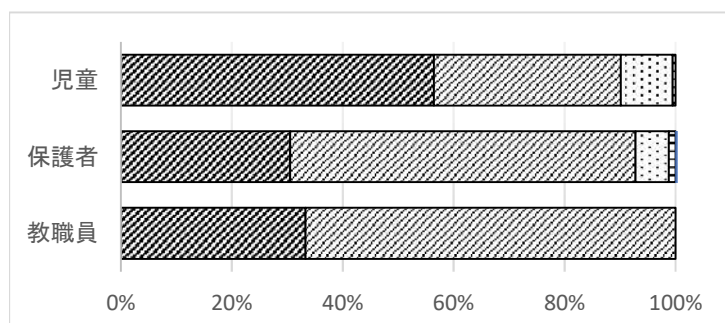
11 いじめや なかまはずれはせず、ともだちと なかよくしている。(児)

子どもは、友だちとなかよくしている。(保・教)



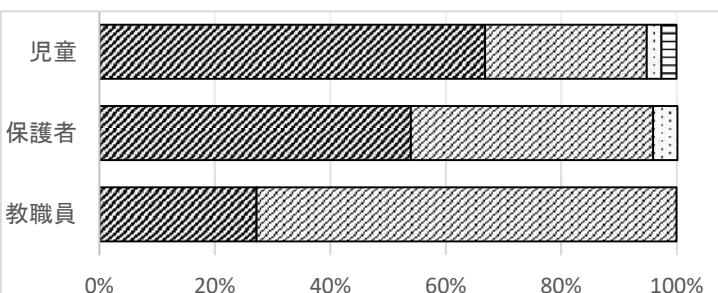
12 ともだちは、わたしの よいところを わかっている。(児)

子どもは友だちから良いところをわかってもらっている。(保・教)



13 たんにんの せんせいは、わたしの よいところを わかっている。(児)

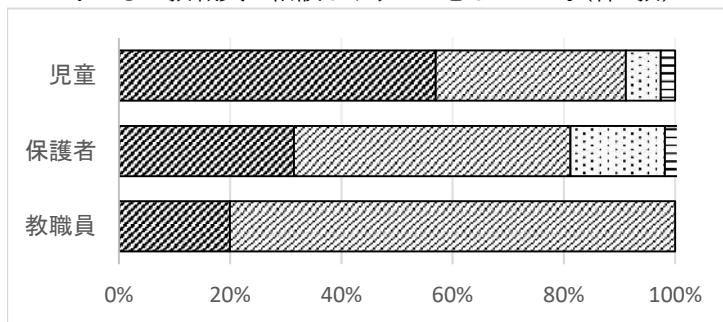
子どもは担任の先生から良いところをわかってもらっている。(保)
子どもは先生から良いところをわかってもらっている。(教)



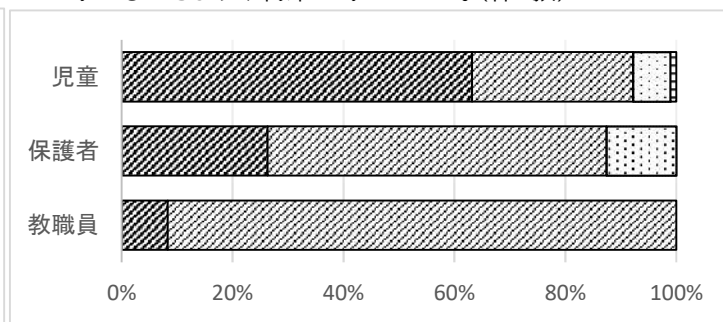
14 がっこうの せんせいは そうだん しやすい。(児)

15 きまりや やくそくを もまっている。(児)

子どもは教職員に相談しやすいと感じている。(保・教)



子どもはきまりや約束を守っている。(保・教)



設問9「進んであいさつをしている」かを問う設問に対する3者のAB評価は児童92%、保護者75%、教職員84%となり、保護者の評価が3者の中で最も低い結果となりました。学校では、児童会やPTAの取組もあり、子どもたちの中で「あいさつはするもの」という意識がついていると感じますが、学校外の場合は、なかなか自分からあいさつする姿が見られないのかもしれませんが、子どもたちには、「学校の中でも外でも、どんなときでも自分から元気よくあいさつをしよう」と促していきます。

設問11「いじめや仲間外れにせず、友だちと仲良くしている」かを問う設問に対する3者のCD評価は児童5%、保護者5%、教職員0%でした。「仲良くできていない」と回答している児童の割合が全体の5%ということは、20人に1人、各学級に1人はいる計算になります。子どもたちには、考え方や感じ方は人それぞれ多様であることを理解し、多様性を受け入れることの大切さや、友だちとうまくいかない時期があっても、話し合うことでお互いの理解を深められることを伝え、全ての子どもたちにとって、学校が居心地の良い場所となるよう今後も指導を続けていきます。

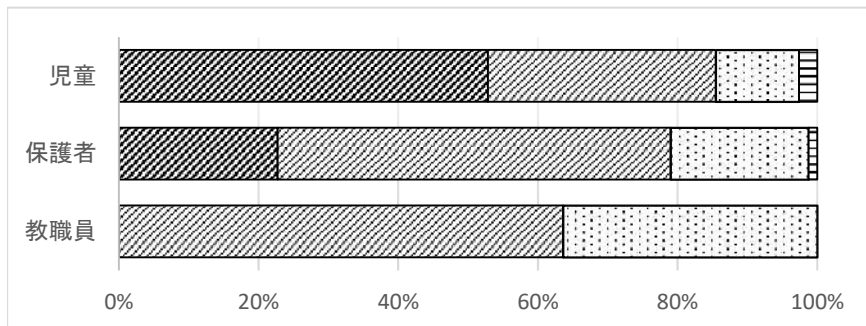
設問15「きまりや約束を守っている」かを問う設問に対する3者のAB評価は、児童92%、保護者87%、教職員100%となっていますが、A評価だけを見ると、児童63%、保護者26%、教職員8%と大きな開きがあります。学校のきまりで考えると教職員から見れば、概ね守れていますが、例えば、「廊下は歩く」、「みんなで使う物は丁寧に扱う」、「借りている本は期限内に返却する」など細部については課題が残っていると感じています。

健やかな体

「心と体を大切にする子」

16 「はやね・はやおき・あさごはん」を まもっている。(児)

子どもは規則正しい生活を送っている。(保・教)



○夏休み明けの「生活リズム調べ」の結果より

◎就寝時刻の様子

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
①	34.4%	50.3%	52.9%	34.8%	56.6%	48.5%
②	28.8%	30.9%	35.1%	32.8%	24.1%	30.9%
③	36.8%	18.8%	12.0%	32.4%	19.3%	20.6%

①…低学年9時までに就寝 中学年9時半までに就寝 高学年10時までに就寝

②…低学年9時半までに就寝 中学年10時までに就寝 高学年11時までに就寝

③…低学年9時半以降に就寝 中学年10時以降に就寝 高学年11時以降に就寝

← 目標就寝時刻



◎朝食摂取の様子

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
99.2%	96.4%	90.8%	93.1%	93.8%	90.9%

◎起床時刻の様子



	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
①	50.4%	75.8%	67.2%	72.1%	78.6%	59.4%
②	48.8%	20.0%	30.5%	21.1%	15.2%	35.2%
③	0.8%	4.2%	2.3%	6.8%	6.2%	5.4%

①…全学年7時までに起床 ←目標起床時刻

②…全学年7時半までに起床

③…全学年7時半以降に起床



「就寝時刻」については、目標就寝時刻までに寝られている児童の割合は5年生が最も高く、1年生が最も低い結果となりました。小学生の時期は、学年が上がるごとに家庭での勉強量が多くなります。その結果、夜遅くまで学習時間が続くと、必要な睡眠時間が確保できず、寝不足になってしまいます。そうすると、睡眠不足による眠気、起床困難が生じたり、体の発育、情緒面への影響が出てしまいます。また、昨今は低学年の時からスマホに触る機会が増えることで、ゲームをする時間も増えます。子どもの中には、スマホゲームに没頭するあまり、早く寝ない、朝起きられないという問題を抱えている場合があります。「睡眠時間」と「スマホの利用時間」は密接に関わっているため、家庭では「使用は1時間以内」や「使用は夜7時まで」というようなルールが必要です。その際は子どもと充分話し合って約束を決めることが大切です。

「朝食摂取の様子」については、ご家庭の協力もあり、多くの児童が朝食を食べて登校することができています。朝食を食べることにより体温が上がり、内臓が動き始め、1日のスタートを切れます。また、文部科学省によると、朝食を毎日食べる子どもの方がテストの正答率が高いことが分かっているそうです。朝食は毎日必ずとれるよう引き続きご家庭での協力をお願いいたします。

「起床時刻」については、どの学年も7時半までに起きている児童の割合は90%以上という結果となりました。起床後は自分で身支度をし、時間に余裕をもって朝食を食べてほしいので、学校に8時～8時20分の間に登校するには、何時に起きればよいかを見直す機会にもしていただきたいと思います。

保護者の皆様より 自由記述(一部抜粋)

○文章を書くのが苦手で週末の作文に苦労しています。

→長文を書くときは、まず出来事やテーマを設定し、それに肉付けしていきます。出来事やテーマに関する書く材料をふくらませるには、出来事であれば、具体的に思い出すことが必要になります。それは、「いつ・どこで・だれが・何を・なぜ・どのように」したかを順序立てて書き、その事柄の前後の出来事なども書けると良いです。子どもたちにお出かせた話を聞くことがよくありますが、「どこへ行ったのか」と聞いても「わからない」という答えが返ってくることもしばしば。保護者の方とお出かけするときは、是非地名や土地柄、地形や気候、伝統、風習、特産品や名物などの話も聞かせてあげてほしいです。また、作文を書くときは、経験したときの気持ちも合わせて書けると読み手にもよりイメージが伝わります。気持ちを書くときには、行動や様子と共に書いたり、高学年であれば、例や慣用句、ことわざ、故事成語を使って書いたりできるとレベルの高い文章を書くことができます。

○毎週末のタブレットと運動会練習の多めのお茶が重なるとランドセルがすごく重くなるので、(9キロ前後)金曜と月曜だけでも、置き勉を増やすことができたかなと思いました。

→今年度も各学年において、家庭に持ち帰らなければならない物と学校に置いておいてもよい物を選別しています。毎日の登下校のことですので、できるだけ子どもたちの負担を減らしたいので、今一度校内で再協議し、適切な対応がとれるようにしたいです。

学校運営協議会の皆様より

- ・学校は学力向上に対して、児童に寄り添った体制整備や個別支援など組織として対応している様子が見える。
- ・自分の意見を相手に伝えるには、大きな声で意見を述べるのが大事。大きな声が出せるようになると自信にもつながる。
- ・家庭での学習習慣を身につけるためには、毎日の繰り返し、粘り強い努力が必要。家庭でも協力してほしい。
- ・朝の挨拶が弱いと感じる。子どもたちが睡眠時間を確保できるよう家庭でもみてほしい。
- ・命を守るために交通ルールはしっかり守ってほしい。特に自転車で出かける際は。
- ・1年生の就寝時刻と起床時刻が心配。スマホやゲームに夢中になっていないだろうか。学校生活の充実のためにも、ご家庭でも家庭生活の改善をお願いしたい。
- ・設問1、2について、CD評価が教職員にはない。後期には改善されたとの認識を持たれたという事だと思う。
- ・設問8「学校は楽しい」について、前期は児童と保護者がほぼ同じだったが、後期になって、児童のCD評価が保護者よりも多くなっている。児童の変化に保護者は気づけているのでしょうか。